

発達障害学生に対する修学支援における効果評価の試み

—各学生における修学上の課題との関連—

○佐々木銀河 青木真純 五味洋一 竹田一則
 (筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター) (筑波大学人間系)

KEY WORDS: 発達障害学生 修学支援 効果評価

(目的)

大学等の高等教育機関では、障害のある学生が増加しており、特に発達障害のある学生に関しては毎年増加している(日本学生支援機構, 2016)。発達障害学生の修学支援においては、障害学生支援室が重要な役割を果たしている。しかしながら、障害学生支援室で行っている修学支援が個々の発達障害学生の修学上の課題に対して有効であったかという効果評価は行われていない。

そこで本研究では、障害学生支援部署で修学支援を受ける発達障害学生に対して、修学支援の効果に関するアンケートを実施し、学生における修学上の課題との関連を後方視的に分析することにより、どのような学生の修学上の課題に対して修学支援が有効であるか明らかにすることを目的とした。

(方法)

参加者: X大学の障害学生支援部署で修学支援を受ける発達障害の診断または傾向のある学生9名(#1~9)が本研究に参加した。各学生の性別、障害種別および主な修学上の課題をTable 1に示す。なお、修学上の課題の詳細は、参加者本人および各支援者(第1~3著者)より得られた情報および先行研究(丹治・野呂, 2014)の類型を参考にして、以下のように類型化している。「情報保障」は、学生における講義で話を聞くことの困難さに対して、支援者が講義の録音許可や資料配布に関する支援を行ったことを示す。「対人関係」は、学生における会話等の困難さに対して、支援者が会話におけるルールやマナー等の助言を行ったことを示す。「時間管理」は、学生におけるスケジュール管理の困難さに対して、支援者がスケジュール管理に関する支援技術の紹介等を行ったことを示す。「講義の出席」は、学生において講義に出席すること自体の困難さがあったことを示す。

Table 1 参加者のプロフィール

No.	性別	障害種別	主な修学上の課題
#1	女性	ADHD傾向	情報保障, 対人関係
#2	男性	ASD, ADHD傾向	時間管理, 講義の出席
#3	男性	ASD	講義の出席
#4	男性	ASD, ADHD	時間管理
#5	男性	ASD傾向	時間管理
#6	男性	ASD傾向	時間管理
#7	女性	ASD傾向, ADHD傾向	時間管理
#8	女性	ADHD	時間管理, 情報保障
#9	男性	ASD傾向, ADHD傾向	時間管理

手続き: 各参加者に対して大学学年暦の前期(事前: X年4月~6月)および後期(事後: X+1年1月~3月)の計2回、アンケートによる修学支援の効果評価を依頼した。修学支援の効果に関するアンケートは、リッカート尺度の6件法を用いて、『修学上の課題によって、悩むことが多くありますか?』、『修学上の課題に対して、適切な解決方法が見つかりますか?』等の10項目で構成した(総合得点の範囲は10~60点であり、得点が高いほど高評価であることを示す)。**従属変数及び分析方法:** 各参加者における事前事後アンケートの総合得点を従属変数とした。また、総合得点に対して対応のあるt検定を行った。

倫理的配慮: 本研究は筑波大学人間系研究倫理委員会の承認を得て実施された。各参加者に対して、書面および口頭により研究内容を説明し、研究に参加しなくても修学支援等を受けられることを説明した上で、文書による同意を得た。

(結果)

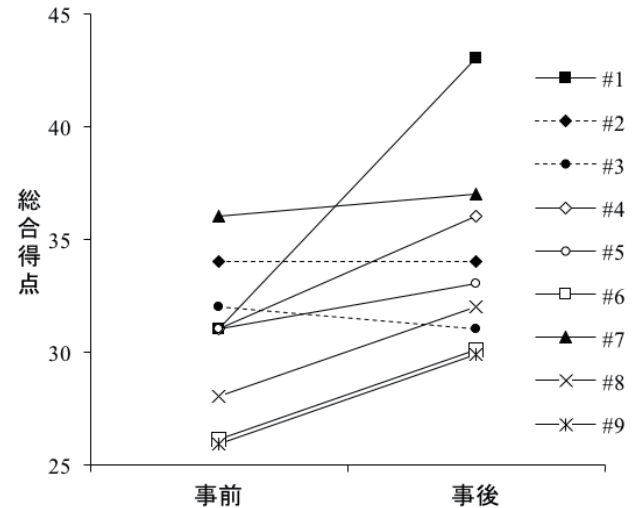


Fig.1 各学生における事前事後アンケートの結果

Fig.1に各学生における事前事後アンケートの結果を示す。9名の参加者中、7名の学生で修学支援の効果に関するアンケートの総合得点が増加した。残り2名のうち、1名(#2)は変化なしであり、1名(#3)は総合得点が減少した。対応のあるt検定の結果、総合得点において有意に増加した($t(8) = 2.71, p < .05, ES: d = .90$)。

事前事後で総合得点の増加が見られた7名の学生に共通する修学上の課題として、「情報保障(#1,8)」「時間管理(#4,5,7,8,9)」が挙げられていた。一方で、事前事後で総合得点の変化がないか、減少した2名の学生に共通する修学上の課題として、「講義の出席(#2,3)」が挙げられていた。性別や所属、障害種別による差異は特に見られなかった。

(考察)

本研究では、先行研究では行われていなかった発達障害学生に対する修学支援の効果評価を試行的に実施した。その結果、学生における修学上の課題の種類と修学支援の効果に関する学生の評価が関連している可能性が示唆された。今後は、より信頼性の高い評価尺度を用いて、多様な課題をもつ発達障害学生を対象に修学支援の効果を経断的に評価するとともに、学生の修学上の課題に応じた効果的な修学支援や合理的配慮の内容について明らかにすることが必要である。

(文献)

丹治敬之・野呂文行(2014) 我が国の発達障害学生支援における支援方法および支援体制に関する現状と課題. 障害科学研究, 38, 147-161.
 日本学生支援機構(2016) 平成28年度(2016年度)障害のある学生の修学支援に関する実態調査結果報告書.
 (SASAKI Ginga, AOKI Masumi, GOMI Yoichi, TAKEDA Kazunori)